

府金 陽太

農村地域に笑顔を

総務部 隠岐支庁県土整備局 農村整備課 技師

令和3年度採用

県職員を選んだきっかけ

ふるさと島根をもっと知りたい！

高校在学中、ふるさとである島根のために働きたいと考えていましたが、育ちは安来市、高校は松江市で、東西に長い県内に縁が無く訪れたこともない地域があることに物寂しさを感じていました。インターンやリクルートに参加した際に、働きながら、島根県各地を様々な視点から知ることができるという先輩職員の方々からのアドバイスに魅力を感じ、県職員を選ぶきっかけとなりました。



現在の仕事内容

災害に強い農村地域を造ります！

農業農村整備事業の測量設計業務や工事の監督員を担当しており、現在は主に農道防災対策、ため池改修、地すべり対策といった農村地域の災害未然防止を目的とした業務に携わっています。近年、自然災害が頻発する中、地域の方々が笑顔で安心して生活ができるように、測量設計会社や建設会社の方々はもちろん、関係自治体や地元の方々とも連携を取り、試行錯誤を重ねながら日々の業務に取り組んでいます。

印象に残っているエピソード

農村地域×先端技術

工事の監督員として、GNSSを活用した測量を目の当たりにしたことが特に印象に残っています。GNSSを活用した測量では、計測器を置くだけで位置情報が確認でき、従来複数人で実施していた測量が高精度かつ1人で実施できます。ICT技術に限らず実際の現場から教科書には書いていない知識を習得できたことに喜びを感じています。「3K」のイメージが強い土木工事ではありますが、今後、更なるICT技術の活用により作業環境を改善するなど、土木工事のイメージをひっくり返したいと思っています。



転勤の良いところ

エンジョイ隠岐ライフ！

現在の所属先である、隠岐の魅力を紹介させていただきます。まずは、「食」です。成人男性の拳ほど大きな岩牡蠣や、ブランド牛である隠岐牛、隠岐の酒蔵で造る地酒を楽しむことができます。また、「行事」も盛んです。相撲に牛付き、馬入れ神事や伝統踊りなど、年中どこを取っても飽きません。県職員のネックとして人事異動と答える方もいると思いますが、仕事をとおして地域の人柄、食、伝統などに触れることで、この上ない充実を実感できるため、長期旅行と思えば人事異動はむしろメリットなのかもしれません。



亀井 悠喜信

安全・安心な島根県づくり

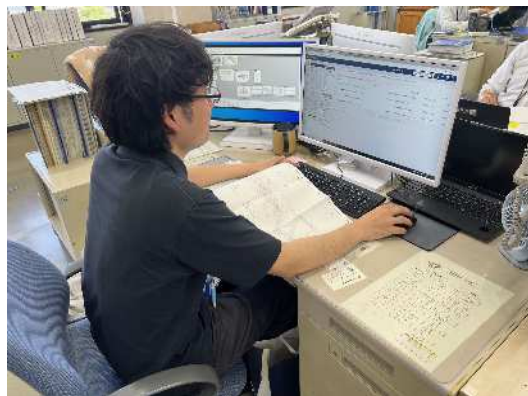
土木部 松江県土整備事務所 農道・防災課
農道・防災係 主任技師

令和3年度採用

県職員を選んだきっかけ

島根県のような施設を造る仕事がしたい

私は高専の専攻科を卒業して島根県職員となりました。学生時代の就職活動では一時は民間企業に就職することも考えましたが、道路、橋、河川、ため池、農地などの色々な施設を整備し、地域社会の発展に貢献できる仕事がしたいと思い、島根県職員（総合土木職）になろうと思いました。また、学生時代に学んだ様々な専門的な知識を余すこと無く活用できるような仕事に就きたいと思ったことも大きな要因です。



現在の仕事内容

地域住民の安全を確保するためのため池整備

現在の私の仕事は、ため池整備事業の工事・施工監督業務です。1つのため池を完成させるまでには、地域住民や農家の方々、市町村職員、施工会社の方々など多くの人と関わるため、様々な意見や要望を収集し、密にコミュニケーションを取る必要があります。このため、仕事を通じて、傾聴力、表現力、問題解決力などの能力が向上したと実感できています。

印象に残っているエピソード

工事完了後の達成感と成長の実感

ため池整備事業の魅力は、計画から完成までの過程を通して具体的な成果を目にすることができるため、工事が完了したときの達成感が非常に大きいことや、地域の発展や安全性の向上に貢献できることです。また、実際の工事に携わることで、学生時代に学んだ土木技術や水理学などの専門的な知識をより深めることができ、成長を実感できる場面が多いです。



ワークライフバランスについて

ご飯（料理）と仕事を充実させる

私は健康的な食事（料理）から、仕事と生活の両方を充実させる働き方を心がけています。一人暮らしの時は毎日、肉と野菜を焼いて食べるだけの生活をしていました。しかし、家事分担で夕食担当になったことで健康的なご飯作りを心がけるようになり、帰宅後の料理の時間を考え、効率よく仕事を行うように変化していきました。今では料理が趣味になり、ストレス解消や充実感を得られ、仕事に対するパフォーマンスに良い影響を与えています。私のオススメ健康食は「かぼちゃスープ🍠」です。



石富 大貴

地域との関わり

土木部 出雲県土整備事務所 防災課 技師

令和3年度採用

県職員を選んだきっかけ

悩みに悩んだ就活

学生時代は県内の高校で土木関係の勉強をしていました。就職先については、これまでに学んだ土木の知識を活かせるような職に就きたいと考え、先生と面談を重ね、公務員になりたいと考えるようになりました。しかし、公務員がどのような仕事なのか分からなかったため、先生や公務員を目指している友人に話を聞くなどし、地域の方々に寄り添った仕事であることが分かり、やりがいがありそうだと感じました。また、公務員は国、県及び市町村に分かれており、私は生まれ育った島根県全体の発展に携わりたいと考え、島根県職員を目指しました。

現在の仕事内容

地すべり対策工事の監督

現在は、地すべり対策事業を担当しています。地すべりが活動しているかの現地調査や、地元の方からの聞き取り調査を行い、調査結果を基に工事の発注及び監督をしています。建設会社の方々と連携しながら工事を進めていき、自分が担当する地区が形になっていくため、やりがいを感じる事が出来ます。



印象に残っているエピソード

仕事内容を身につける三年間

入庁してからの3年間で特に印象に残っています。1年目は工事の監督や予算管理など全てが初めての経験で、不安でいっぱいでした。2年目には1年目の経験を活かし、仕事の流れを理解したうえで、仕事に臨むことができました。3年目はこれまで学んだことを活かし、工事担当として受注者からの質問に対し、自分で判断し回答することができ、自分の成長と仕事のやりがいを実感した1年でした。



転勤の良いところ

島根県をよく知ることが出来る

私は、初任地が隠岐の島でした。最初は初めての一人暮らしということもあり不安でしたが、職場の先輩や同期が優しく接してくれたため、一人暮らしにも比較的すぐ慣れることが出来ました。また、島根県職員は異動が約3年ごとにあるため、知らない土地に住むことがあります。何度か訪れたことのある場所でも住んでみると、それまで知らなかった地域の活動等を知ることができ、とても良い機会になると思います。

飯塚 天嶺

しまねの農村の未来のために

土木部 県央県土整備事務所
大田事業所 農村整備課 主任技師

令和3年度採用

県職員を選んだきっかけ

田園風景を守るために

幼いころから目に映る景色の一部には田んぼや畑がある生活をしてきました。このように当たり前となっていた田園風景が年々減っているということを学生時代に知り、衝撃を感じるとともに田園風景を守っていきたいと思うようになりました。農業土木に関する職であれば思いを実現できると思ったため、島根県の総合土木職員を目指すことに決めました。



現在の仕事内容

より良い生産基盤を目指して

田畑の区画を大きく整形したり、排水性を良くしたりすることで、生産性の高い農地をつくることを目的としたほ場整備の工事監督・予算調整を担当しています。ほ場整備工事では区画整理だけでなく、用排水路や農道などの周辺施設も併せて整備するため幅広い知識が求められます。現場条件によって生じる新たな問題、生産者である地元の意見や要望に対応し、建設会社の方々とより良い生産基盤を作り上げることを目指して日々の業務に取り組んでいます。

印象に残っているエピソード

つながる仕事

以前の部署では、ほ場整備を含む農業農村整備事業全般の調査計画という工事より一つ前の段階となる業務に携わっていました。現在の部署では、工事を担当するようになり、地域の方とのやり取りの中で、「ほ場整備をしてから作業がしやすくなって本当によかったよ。」と感謝の言葉をいただいた時には嬉しい気持ちになるとともに、計画立案からようやくここまで繋がったのかという達成感を強く感じました。



転勤の良いところ

新たに知ることの喜び

県職員といえば「転勤」のイメージがあり、転勤に伴う引越しが多いと思っていましたが、これまでの勤務先は実家から通勤しています。また、私は島根県にそこそこの年数住んでいるので、県内で転勤しても新鮮さがなさそうだなと思っていました。しかし、いざ大田事業所に勤務してみると初めての道・初めての店・初めての景色など初めてのものだらけでした。県職員にとって切っても切れない転勤というものが楽しみに変わった瞬間でもありました。このため、今後の転勤も少しだけ楽しみに県職員生活を送っています。

福島 彩介

持続可能な農村を創造するため、働きます！

土木部 浜田県土整備事務所
農林工務部農道・防災課 技師

令和3年度採用

県職員を選んだきっかけ

生まれ育ったしまねの力になりたい！

高校入学時点では明確な夢があったわけではなく、漠然と生まれ育った島根県で就職したいと考えていました。就職活動で島根県の総合土木職について調べるうちに、「高校で学んだ農業土木の知識を生かし、生まれ育ったしまねの力になれる仕事」であるところに魅力を感じ、島根県の農業農村整備職員になりたいと思いました。

現在の仕事内容

農村地域の声に耳を傾け、整備していく

農業をしやすいように農地や施設を整備する農業農村整備事業の工事監督・予算管理等を担当しています。中でも、水田や畑を整備するほ場整備や農道整備、ため池整備といった業務に携わってきました。農村地域の声に耳を傾けながら、地域全体を活性化させるため日々頑張っています。



印象に残っているエピソード

地域住民の笑顔を創れる

現在、私が携わっている農業農村整備の魅力は、地域住民の「笑顔」を創れることです。農業農村整備事業は、農家の方々とやり取りを行い、理解を得た上で仕事を進める必要があります。当然、農家の方々が先祖代々受け継がれてきた田畑を工事するわけですから、時には要望や指摘を受けることがあります。そういった要望に応え、笑顔で「田んぼが大きくなり、整形されたことで営農がしやすくなった」と喜んでもらえたときは、県職員としてのやりがいや達成感を感じました。

ワークライフバランスについて

仕事も遊びも常に本気

小学3年生のころから始めたサッカーを、今でも趣味として続けています。続けられている理由として、サッカーが好きなこともありますが、ワークライフバランスを実現しやすい職場環境で、帰ってからトレーニングに掛ける時間を捻出できることが一番です。社会人になり、学生の時のような時間の余裕は明らかに減りますが、段取りやスケジュール管理などの、仕事の工夫を行うことで家に帰ってからの時間を有効に使うことができます。

